

ESD for 2030 学びあいプロジェクト 中間レビュー(案)



ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

ESD for 2030 学びあいプロジェクトについて

<概要>

2021年5月策定の第2期ESD国内実施計画に位置付けられた「テーマ別の学び合いの仕組み」として、特定テーマに関心を持つ多様な主体が地域を越えて参加し、相互の学び合いや実践を通じてESD活動の高度化を図る。全国8カ所の地方ESD活動支援センターがテーマを設定・運営し、成果は毎年のESD推進ネットワーク全国フォーラムで共有する。

<プロジェクトの目的>

気候変動を切り口として各センターが設定したテーマや課題に関心を有する様々な主体が地域を越えて参加し、相互の学び合いや実践活動を通して各主体の活動の向上を図るとともに、得られた知見を活かし同様の取り組みを全国に広めていくことを目的とする。

<プロジェクトの進め方>

- 全国8カ所の地方ESD活動支援センターが、地域の課題や各センターの強みを考慮してテーマを設定し、プロジェクトを運営。
- テーマ・目的に沿って、メンバー同士の勉強会やESD活動の企画・実践などを行う。
- 毎年のESD推進ネットワーク全国フォーラムにおいて結果報告を行い、得られた知見を共有。

ESD for 2030 学びあいプロジェクトのあゆみ

2021～2022年度にかけては、各センターごとに個別のテーマ設定により実施。2023年度からは環境省の重点施策との親和性を高めることをねらいに、気候変動を切り口として学びあいプロジェクトを実施。なお、その際にESD・気候変動教育の推進に関するコンセプトペーパーを作成。

2021年

★学びあいプロジェクトスタート

北海道センター：気候変動教育の確立・普及に向けた情報共有・対話の促進／東北センター：地域の素材から考えるESD／SDGs教育の可能性
関東センター：自然体験を通じて、生活に関わるSDGsを学ぶ／中部センター：ローカルSDGsのためのESDの社会実装
近畿センター：脱炭素型ライフスタイルを促すESD学習プログラムの向上／中国センター：脱炭素社会に貢献する学校断熱のSDGs探究学習プロジェクト
四国センター：消費者教育の推進と社会変容～ジェンダーの視点&エネルギーシフトの視点～
九州センター：中学校におけるSDGsを活用したキャリア教育

★気候変動教育研究会発足（（一社）日本環境教育学会内）～2023年度まで

気候変動教育の確立・普及に向けた情報共有・対話の促進（北海道センター学びあいプロジェクト）が発足に貢献

2023年

★ESD・気候変動教育の推進に関するコンセプトペーパー作成

環境省の重点施策との親和性を高めることをねらいに、気候変動を切り口とした学びあいプロジェクトに発展

2024年

★気候変動教育を進める指針の策定

気候変動教育に関する国内外の動向整理や課題分析、今後のあるべき方向性について検討を重ね、その成果として指針を策定

★気候変動教育研究会の設置

地球温暖化防止活動全国ネット（JNCCA）と連携し、2024年には同団体内に気候変動教育研究会が設置
また、学校教育における気候変動教育の事例調査にESD活動推進拠点の事例などを提供

★環境教育等促進法の基本的な方針の見直し

学校・地域・企業等の多様な主体をつなぐ中間支援組織の強化と活用が掲げられ、ESD活動支援センターの役割が、国の基本方針の中で明示

第2期ESD国内実施計画(2021年5月策定)

URL: https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_koktou01-000015385_2.pdf

▼ESD for 2030 学びあいプロジェクト概要箇所(10ページ)

(3)優先行動分野3:教育者の能力構築

政府は、ESD国内実施計画(平成28年3月 持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議)に基づき、多様なステークホルダーが参加するESD推進ネットワークにおいて、様々な立場の教育関係者による学びあいを強化する。本ネットワークは、持続可能な社会の実現に向け、ESDにかかわるマルチステークホルダーが、地域の取組を核に、様々なレベルで分野横断的に協働・連携してESDを推進する目的で整備されてきた。

今後とも、ESDに関する最新の動向や各地の優れたESD実践事例を共有し、ネットワーク参加者が交流し相互に学びあう場となる機会を提供する。

参考:ESD・気候変動教育の推進に関するコンセプトペーパー

ESD・気候変動教育の推進に関するコンセプトペーパー(2023年3月公開)

URL:<https://esdcenter.jp/wp-content/uploads/2023/03/846e01bb201c280e3474ed32d7ef90f4.pdf>

URL(簡易版):<https://esdcenter.jp/wp-content/uploads/2023/03/289ff94befc20974553ae5a0817f8517.pdf>

SDGs達成に向けた教育分野での取組として、気候変動を切り口としたESD(気候変動教育)を重点的に推進していくこととしたことを踏まえ、その背景や推進の方向性、ESD活動支援センター(全国・地方)の取組等についてまとめたコンセプトペーパーを作成。

ESD推進ネットワーク可視化タスクフォースが原案を作成し、ESD活動支援企画運営委員会、ESD活動支援センター連絡会、ESD推進ネットワーク全国フォーラムでの議論を経てまとめる。

本ペーパーに沿って活動を進め、地域・社会の変容を支えインパクトをもたらすネットワークを目指していく。

【ESD推進ネットワーク可視化タスクフォース委員】(敬称略、所属・役職は当時のもの)

- 佐藤 真久(座長:東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授)
- 久保田 学(北海道地方ESD活動支援センター)
- 広石 拓司(株式会社エンパブリック 代表取締役)
- 松原 裕樹(中国地方ESD活動支援センター)

ESD推進ネットワークによる気候変動教育の推進(目標)

＜当面のミッション＞

気候変動を切り口にESDの可能性を広げ、学校・社会教育への実装によりその効用を実証・可視化する。

＜2030年までに実現したい姿(上位目標)＞

脱炭素社会への移行を前向きに捉え、公正な移行に貢献する人材を増やしていくための学習・能力開発の機会が学校教育・社会教育それぞれに確立・定着し、受容度の高まりが見られること。

＜2025年までにめざす姿(成果目標)＞

① 気候変動教育の主流化

学校教育、社会教育(地域拠点及びビジネスセクター)のそれぞれの領域において、主要ステークホルダーに気候変動教育に取り組む必要性・意義が認識され、実践者の増加や支援体制の構築が確認できること

② 拠点・ネットワークの拡充

各地の地球温暖化防止活動推進センター、気候変動適応センター、社会教育施設、環境学習拠点施設・団体等がネットワークに参画し、この分野における地域ESD推進拠点の機能・意義が学校や自治体から認知されていること

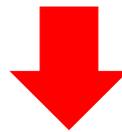
③ 推進体制・仕組み

気候変動教育が国・自治体・経済団体等の政策に何らかの形で位置づけられ、実践が広まりはじめていること

ESD活動支援(全国・地方)センターの取組(2023年度～)

地域の気候変動教育の掘り起こし、ステージアップ・変容に向けて、推進拠点の把握・創出、対話、学びの場づくり・仕組みづくりの共創を既存の地域ESD推進拠点とともに進めていく

1. 各地域・分野の気候変動教育の実践状況の整理・可視化
 - 地域ESD推進拠点及び拠点候補の状況把握・意見交換等(地域の「宝」の掘り起こしを進める)
 - 地球温暖化防止活動推進センター、気候変動適応センター等による実践状況、教材・プログラム等の把握
 - 実践・支援拠点及び全国ネットワーク団体とのプラットフォーム形成・運営、定期的な交流の場の設置
2. 地域ESD推進拠点等との協働による気候変動教育の場づくり・仕組みづくり(拠点機能強化)
 - 全国・地方センター業務による各地域・分野への気候変動教育の意識づけ、ニーズ把握, ノウハウ共有等
 - 地域ESD推進拠点、全国規模協力団体等との協働による、学校教育、社会教育地域拠点、ビジネスセクターそれぞれを対象とする「気候変動×〇〇」の学びの場づくり、担い手育成、仕組みづくり



- センター・地域ESD推進拠点の気候変動教育推進に関する機能を強化・実装し、実績を可視化する
- 環境・教育政策への位置づけの強化を図る(環境教育促進法との関わり付け等)
- 2030年にかけてモデル的な拠点機能の形成を進め、国内の気候変動教育の本格展開をめざす

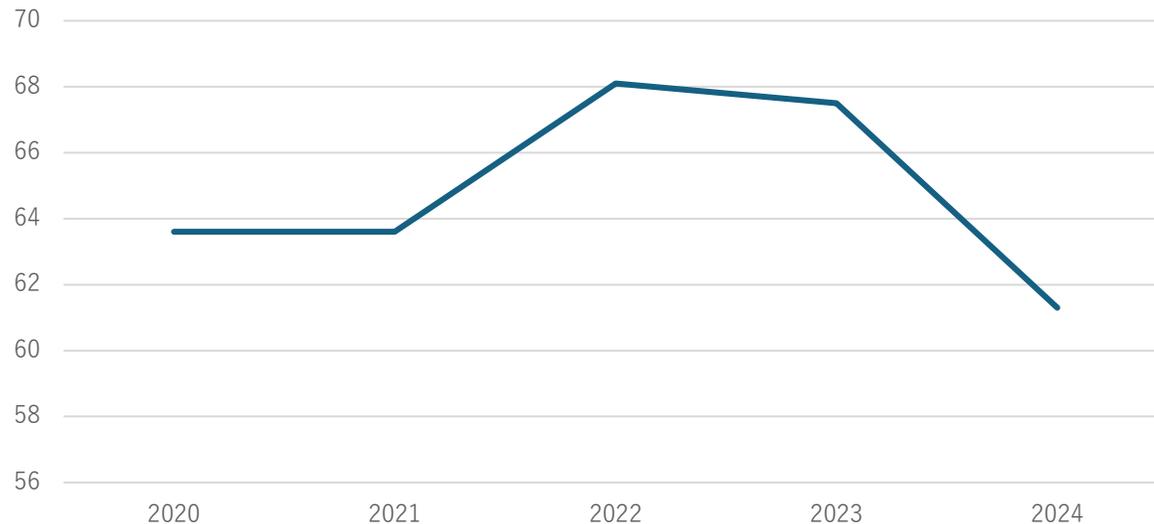
ESD活動支援(全国・地方)センターの取組(2023年度～)

1. 各地域・分野の気候変動教育の実践状況の整理・可視化

<地域ESD推進拠点及び拠点候補の状況把握・意見交換等>

地域ESD推進拠点に対する年次アンケートに気候変動教育に関する項目を設けた他、ヒアリング等を実施し、気候変動教育の状況把握に努めた。年次アンケートからは、SDGs目標13に取り組む拠点の割合は60%台で安定的に推移していることが分かる。大きな増減はないものの、過半数の拠点が継続的に気候変動を重要テーマとして位置づけていることは、各地域において気候変動教育が一定程度「当たり前」のテーマとして認識されていることを示す。

SDGs目標13 気候変動へのアクションに取り組む
地域ESD推進拠点の割合



気候変動をテーマにした学びや実践の取組み

	回答数	実施回数	累計参加者数
2024	67	1,021	51,512
2023	62	859	35,390
2022	67	869	47,272

ESD活動支援(全国・地方)センターの取組(2023年度～)

1. 各地域・分野の気候変動教育の実践状況の整理・可視化

＜地球温暖化防止活動推進センター、気候変動適応センター等による実践状況、教材・プログラム等の把握＞

2021年に、(一社)日本環境教育学会内に特設研究会として「気候変動教育研究会(座長:白井信雄氏(ESD活動支援企画運営委員/武蔵野大学教授)」が設置された。本研究会には、ESD活動支援センター全国センターの加藤および北海道センターの久保田、中部センター学びあいプロジェクト有識者メンバーが参画した。研究会では、3年間にわたり気候変動教育に関する国内外の動向整理や課題分析、今後のあるべき方向性について検討を重ね、その成果として、2024年3月に『気候変動教育を進める指針』を作成・公開した。

また、地球温暖化防止活動全国ネット(JNCCA)と連携し、2024年には同団体内に気候変動教育研究会が設置され、学校教育における気候変動教育の事例調査が進められた。

さらに、気候変動教育の実践支援に資する教材・プログラムとして、「地球温暖化まなびBOX(作成:地球温暖化防止活動全国ネット)」や、「Future Kid Takara ワークシート(教育監修:(公社)日本環境教育フォーラム〈全国協力団体〉)」等について把握・整理を行い、今後の活用や普及に向けた基礎情報の蓄積に努めた。



作成:地球温暖化防止活動全国ネット(JNCCA)
<https://www.jncca.org/climate-change-education/manabi-box>



教育監修:日本環境教育フォーラム
<https://sdgs.nhk-ep.co.jp/futurekidtakara/worksheet/>

ESD活動支援(全国・地方)センターの取組(2023年度～)

1. 各地域・分野の気候変動教育の実践状況の整理・可視化

<実践・支援拠点及び全国ネットワーク団体とのプラットフォーム形成・運営、定期的な交流の場の設置>

地球温暖化防止活動全国ネット(JNCCA)と連携し、2024年には同団体内に気候変動教育研究会が設置され、気候変動教育に関する実践や課題について関係者が学びあう場の提供に貢献した。また、2023年以降は全国協力団体意見交換会に日本国内における気候変動教育関係者を参集し、交流を通じてネットワークを拡大してきた他、毎年開催しているESD推進ネットワーク全国フォーラムにおいて、気候変動に関連するテーマを設定し、参加者に対して気候変動がESDにおける重要テーマであることの認識向上を図った。

年	タイトル
2025年	世代をこえて考える、気候危機のこれから～こども・ユースの声をきっかけに広がる対話～
2024年	気候変動×教育×〇〇～点から線、線から面へのつながりづくり～
2023年	気候変動を切り口としたESDの意義とひろがり～地域における場づくり・仕組みづくり～
2022年	実践的・包括的なSDGs人材育成を目指して～気候変動教育からはじめよう～
2021年	ESD for 2030のキックオフ～脱炭素社会づくりに向けたESD推進ネットワークの役割～

ESD活動支援(全国・地方)センターの取組(2023年度～)

2. 地域ESD推進拠点等との協働による気候変動教育の場づくり・仕組みづくり(拠点機能強化)

- 全国・地方センター業務による各地域・分野への気候変動教育の意識づけ、ニーズ把握、ノウハウ共有等
- 地域ESD推進拠点、全国規模協力団体等との協働による、学校教育、社会教育地域拠点、ビジネスセクターそれぞれを対象とする「気候変動×〇〇」の学びの場づくり、担い手育成、仕組みづくり

地域の課題や各センターの強みを踏まえてテーマを設定し、学校、地域団体、行政、企業等の多様なセクターを対象としたプロジェクトを運営した。気候変動教育に関する学びの場づくりや担い手育成の基盤が十分に整っていない状況からのスタートであったが、モデルとなるプログラムや実施体制を開発・実施することで、気候変動教育を推進するための基盤の形成および定着化を図った。2024年度のプロジェクトは下記のとおり。また、各プロジェクトの詳細は別添資料を参照。

センター名	プロジェクトタイトル	対象フィールド・パートナー
北海道センター	札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト	動物園・水族館
東北センター	市民施設における気候変動教育	公民館
関東センター	気候変動じぶんごと化プロジェクト	学校、障がい者施設
中部センター	SDGsワークショップ「学び合いの場の作り方」	大学、自治体、温暖化防止センター等
近畿センター	学校と地域の連携に必要なことは？	学校
中国センター	脱炭素ロードブックの継続・水平展開	市民
四国センター	四国ESDバーチャル大学	市民、企業
九州センター	気候変動教育推進に向けた環境学習施設ネットワーク形成	環境学習施設

ESD活動支援(全国・地方)センターの取組(2024年度)



北海道センター: 札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト

動物園スタッフや環境教育実践者とともに動物園の強みを活かしたESDの可能性について検討し、展示動物をテーマに気候変動、生息地の変化、私たちの生活との関わりを考える対話型のプログラムを重ね、関係者・参加者から高い評価を得ました。学校教員・企業・NPOとの協働等も試行し、継続や他園館での展開に向けた機運を得てきています。



東北センター: 市民施設における気候変動教育

宮城県仙台市の市民センター(公民館)を対象に、市民施設での気候変動教育の可能性を探るプログラムを展開しました。気候変動を切り口とした市民講座の企画のコツについて関係者の学びを深め、実際の企画・講座実施を通じて、既存講座との関連性を感じ、気候変動教育への理解が深まりました。



関東センター: 気候変動じぶんごと化プロジェクト

気候変動による水害への対応策として、自立型発電に着目して2カ所の地域ESD拠点と連携しました。(一社)自然エネルギー推進機構とは、神奈川県立山北高校2年生を対象に、山が多い地域特性と小水力発電による避難所への給電を学びました。(一社)銀座環境会議とは、千葉県柏市内の障がい者通所施設の太陽光発電を題材に再生可能エネルギーへの理解を深めました。



中部センター: SDGsワークショップ「学び合いの場の作り方」

昨年度作成した「ESD学び合いの場づくりワークブック」を有効に活用するため、セミナーなどの「学び合いの場」を企画するワークショップを試行的に開催しました。学園祭のSDGsブースを企画する学生、デコ活の普及啓発を担当する関係者、市民教育の企画を考える自治体職員などを対象とし、試行結果を踏まえてワークショップパッケージを作成しています。

ESD活動支援(全国・地方)センターの取組(2024年度)



近畿センター: **学校と地域の連携に必要なことは?**

教員や教育委員会、自治体環境部局を対象に、気候変動を切り口とした学校と地域の連携事例について学び合い、来年度以降の活動計画案を作成しました。取組の事例紹介をきっかけに現場の状況を踏まえた意見交換では、学校と地域の両者にとってWin-Winの関係を構築することが重要といった具体的なポイントを抽出することができました。



中国センター: **脱炭素ロードブックの継続・水平展開**

昨年度に鳥取県北栄町で実施した脱炭素ロードブック制作プロジェクトの成果物(冊子)を活用した継続展開として、「ほくえい未来トーク2024」を共催して、脱炭素地域づくりの担い手育成や再エネ・省エネの推進に役立てました。また、これらのノウハウを中国地方に水平展開するために、島根県・岡山県・山口県の関係機関と意見交換を行いました。



四国センター: **四国ESDバーチャル大学**

地域イベントや環境白書、ジオパークなどの様々な切り口からESDに触れる機会を提供し、意見交換を通して行動変容、社会変容につながるアイデアを共有することができました。多様な主体との連携によって、様々な分野の学びを気候変動教育と結びつけ、それぞれの特色を生かした気候変動教育、ESDプログラムづくりの素地が作られました。



九州センター: **気候変動教育推進に向けた環境学習施設ネットワーク形成**

持続可能な社会づくりにつながる基本的な学びの場である公設型の環境学習施設をネットワーク化することで、気候変動教育の推進を目指しました。施設職員による教材活用研修(@タカミヤ環境ミュージアム)や地域企業の巻き込み、専門家との連携形成に向けた意見交換(@かごしま環境未来館)を通して、ウェルビーイングにつながる気候変動教育に向けた相互参照が進展しました。

成果目標に対する達成度＜気候変動教育の主流化＞

① 気候変動教育の主流化

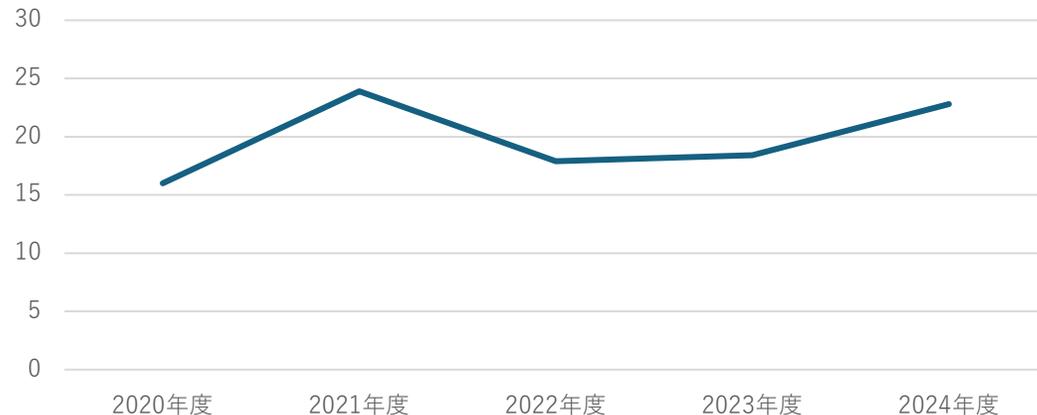
学校教育、社会教育（地域拠点及びビジネスセクター）のそれぞれの領域において、主要ステークホルダーに気候変動教育に取り組む必要性・意義が認識され、実践者の増加や支援体制の構築が確認できること

＜気候変動教育に取り組む必要性・意義の認識＞

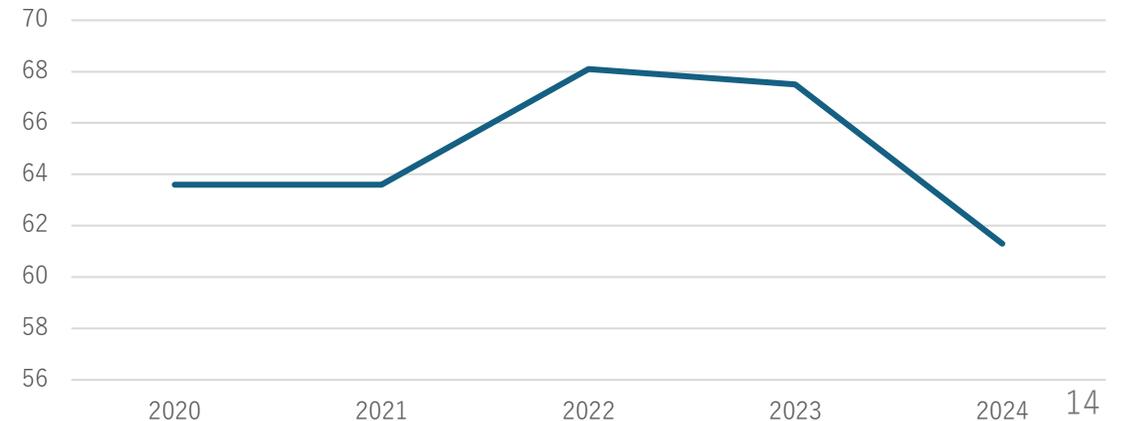
ユネスコスクールにおいて教育活動でSDGs目標13（気候変動）を取り上げた割合は、2022年度の17.9%から、2023年度は18.4%、2024年度には22.8%へと年々上昇している。これは、学校現場において気候変動が教育上の重要なテーマとして認識され、気候変動教育に取り組む必要性・意義が教職員をはじめとする主要な教育関係者の間で徐々に浸透してきていることを示している。

一方、地域ESD推進拠点においては、SDGs目標13「気候変動へのアクション」に取り組む拠点の割合が60%台で推移しており、気候変動教育が地域の社会教育分野において一定程度定着している状況が確認できる。

ユネスコスクールの教育活動で取り上げたSDGs目標13の割合



SDGs目標13 気候変動へのアクションに取り組む地域ESD推進拠点の割合



成果目標に対する達成度＜気候変動教育の主流化＞

① 気候変動教育の主流化

学校教育、社会教育（地域拠点及びビジネスセクター）のそれぞれの領域において、主要ステークホルダーに気候変動教育に取り組む必要性・意義が認識され、実践者の増加や支援体制の構築が確認できること

＜支援体制の構築＞

こうした認識の広がりを支える取組として、2021年には（一社）日本環境教育学会内に特設研究会として「気候変動教育研究会（座長：白井信雄氏（ESD活動支援企画運営委員/武蔵野大学教授）」が設置され、ESD活動支援センター全国センターの加藤および北海道センターの久保田、中部センター学びあいプロジェクト有識者メンバーが参画した。同研究会では、気候変動教育に関する動向整理や課題分析を行い、その成果として2024年3月に『気候変動教育を進める指針』を作成・公開した。この指針は、教育関係者や実践者が気候変動教育に取り組む際の共通の方向性を示すものであり、実践の促進と支援体制の基盤形成に寄与している。

さらに、地球温暖化防止活動全国ネット（JNCCA）と連携し、2024年には同団体内に気候変動教育研究会が設置され、学校教育における気候変動教育の事例調査が進められた。加えて、2025年には教職員向けの教材集として「地球温暖化まなびBOX」が開発・公開され、実践者が具体的に活用できる支援ツールが整備された。同様に、気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）においても、普及啓発・学習ツールがウェブ上で公開されている。

これらの取組により、気候変動教育の必要性・意義が学校教育および社会教育の主要ステークホルダーに共有されるとともに、実践者の増加を後押しする環境が整備され、研究・教材・情報基盤が連動した支援体制の構築が進展していることが確認できる。

これらの変化は、ESD活動支援センター単独の取組によるものではないが、学びあいプロジェクトを通じて、地域・分野を越えた実践の共有や関係主体の接続が進んだことが、気候変動教育の認識拡大と実践の下支えとなったと考えられる。

成果目標に対する達成度＜拠点・ネットワークの拡充＞

② 拠点・ネットワークの拡充

各地の地球温暖化防止活動推進センター、気候変動適応センター、社会教育施設、環境学習拠点施設・団体等がネットワークに参画し、この分野における地域ESD推進拠点の機能・意義が学校や自治体から認知されていること

＜拠点・ネットワークへの参画＞

地域ESD推進拠点は、2023年度の187拠点から、2024年度には204拠点、2025年度には214拠点（2026年1月1日現在）へと着実に増加しており、全国的な拠点・ネットワークの拡充が進んでいる。このことは、地域におけるESD推進の基盤が量的に拡大し、相互につながるネットワークとしての広がりを強めていることを示している。

また、地域ESD推進拠点のうち、SDGs目標13「気候変動へのアクション」に取り組む拠点の割合が60%台で推移していることから、気候変動教育が多くの拠点において重点テーマの一つとして位置づけられ、一定程度定着している状況が確認できる。これは、拠点ネットワークの拡充とあわせて、気候変動を切り口としたESDの取組が各地域に広がっていることを示すものである。

成果目標に対する達成度＜拠点・ネットワークの拡充＞

② 拠点・ネットワークの拡充

各地の地球温暖化防止活動推進センター、気候変動適応センター、社会教育施設、環境学習拠点施設・団体等がネットワークに参画し、この分野における地域ESD推進拠点の機能・意義が学校や自治体から認知されていること

＜学校や自治体からの認知＞

一方で、気候変動を切り口としたESDを推進するための拠点機能やネットワークが整備されつつあるにもかかわらず、学校や自治体からの認知・活用は十分とは言えない状況にある。とりわけ、ESD推進ネットワークから地域の学校教育へ直接アプローチすることには一定の限界があり、学校現場との接続においては教育委員会をはじめとする教育行政による制度的・継続的なサポートが不可欠な状況にある。

他方で、様々なテーマとの接合や社会教育拠点と連動した学びの場づくりの有用性も確認されており、気候変動教育への関心は着実に高まりつつある。こうした他分野・他セクターとの連携を通じたアプローチは、ESDの裾野を広げるうえで重要な可能性を有している。

2024年5月に閣議決定された「環境教育等促進法の基本的な方針の見直し」では、環境教育の一層の推進に向けて中間支援組織の強化が掲げられており、ESD活動支援センター等の既存の中間支援組織を効果的に活用するための仕組みづくりが、今後の拠点・ネットワークの更なる活性化に向けた重要な課題となっている。

成果目標に対する達成度＜推進体制・仕組み＞

③ 推進体制・仕組み

気候変動教育が国・自治体・経済団体等の政策に何らかの形で位置づけられ、実践が広まりはじめていること

＜環境教育等促進法の基本的な方針の見直し＞

近年の気候変動問題の深刻化を受け、気候変動等の危機に対応するため、個人の意識・行動変容と組織や社会経済システムの変革を連動的に促す環境教育の推進が明確に位置づけられた。その具体的方策の一つとして、学校・地域・企業等の多様な主体をつなぐ中間支援組織の強化と活用が掲げられ、ESD活動支援センターの役割が、国の基本方針の中で明示された。

＜第2期ESD国内実施計画＞

地域の課題や各センターの強みを踏まえてテーマを設定し、学校、地域団体、行政、企業等の多様なセクターを対象としたプロジェクトを運営した。気候変動教育に関する学びの場づくりや担い手育成の基盤が十分に整っていない状況からのスタートであったが、モデルとなるプログラムを開発・実施することで、気候変動教育を推進するための基盤の形成および定着化を図った。また、上述のとおり気候変動教育の主流化や拠点・ネットワークの拡充に貢献した。

成果まとめ

＜中間レビューにおける成果＞

学びあいプロジェクトは、第2期ESD国内実施計画に位置づけられた「テーマ別の学びあいの仕組み」として、2023年度以降、気候変動を切り口に全国8か所の地方ESD活動支援センターが共通テーマのもとで展開してきた。中間レビューにあたっては、以下の点が明確になった。

- 学校、地域団体、自治体、企業、専門家等の多様な主体が地域・領域を越えて参加し、相互に学び合う実践的な場が形成されたこと
- 気候変動教育に関する学びの場づくりや担い手育成の基盤が十分に整っていない状況から出発しつつも、各地域でモデルとなるプログラムが開発・実施されたこと
- その成果がESD推進ネットワーク全国フォーラム等で共有され、知見の可視化と横展開の芽が生まれていること

これらは、学びあいプロジェクトが単なる単年度事業ではなく、ESD推進ネットワークを機能させる中核的な仕組みとして一定の成果を上げていることを示している。

札幌市円山動物園 × 気候変動教育プロジェクト(2023～25年度・北海道センター)

ねらい

- 抜群の知名度と人気を誇る動物園の特性を活かし、新たな気候変動教育のフィールドを創出する。
- 動物展示を入り口とする気候変動教育プログラムを開発・実証し、環境・サステナビリティについての対話の場としての動物園の役割を定着させていく
- 北海道内の他の動物園・水族館にも動きを共有し、面的展開につなげていく。

実施概要

- 動物園・環境教育実践者によるWS(3回)をとおして動物園の強み、可能性、取組手法等を整理(2023)
- 教員ワークショップの開催による小学校の環境教育との連携(2024)
- 飼育展示を活用した気候変動教育プログラム(半日)の開発・実践(3回、計58人参加/2024)
- 道内11園館のヒアリング調査実施(2024)
- 企業と連携した気候変動教育プログラムの開発・試行(2回、計48人参加/2025)
- 動物園と企業の共創による学びの場づくりワークショップ(2025、12社16人参加)
- 地域フォーラムによる取組成果の発信(2023～24、計179人参加) ※ 2025年度は3/22実施予定

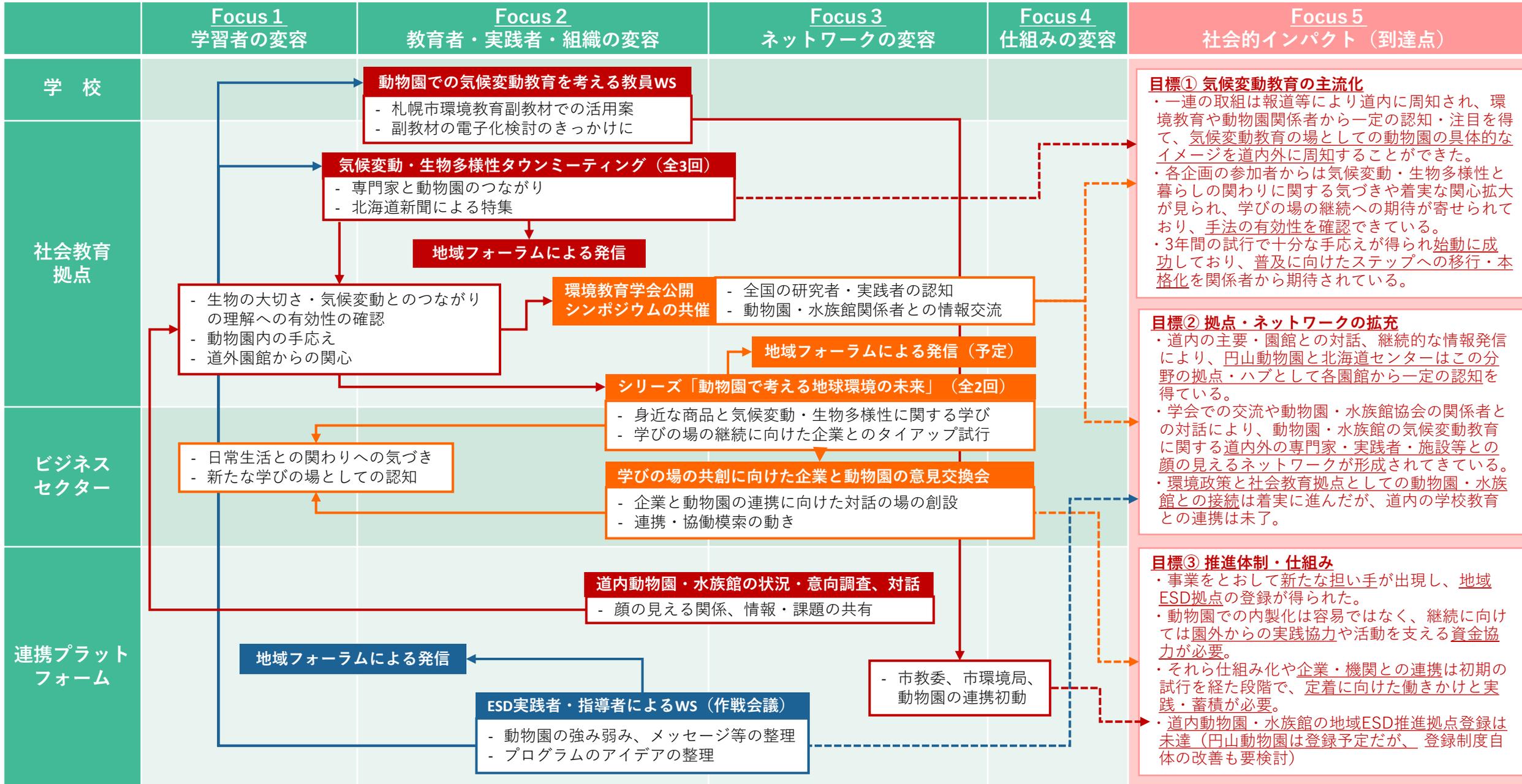
主な成果 ※ 学び合いプロジェクトの中期目標ごとの到達度は次ページ右欄に記載

- 各プログラムの参加者満足度は非常に高く(平均96%)、参加をとおした学習効果(理解度平均94%)も確認できており、手法・場の有効性を実証できた。
- メディアによる特集や報道、ESDセンターからの情報発信、地域フォーラム、公開シンポジウム等をとおして周知が図られ、道内の学校教育・社会教育実践者・関係者からは一定の認知が得られている。
- これらをとおして動物園・水族館の新たな役割・ESD拠点としての可能性が事例として可視化され、期中の交流をとおして国内園館とESD推進ネットワークの接合の可能性が見えてきている。
- 企業との場の共創の試行をとおして取組継続の仕組み化に向けた手応えが得られている。ただし、普及に向けたパッケージ化は未了であり、企業への発信に向けても事例の蓄積が求められる。



【北海道センター】 札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト（2023～25年度）

インプット： 2023年度 2024年度 2025年度 アウトプット・アウトカム： 2023年度 2024年度 2025年度



社会教育施設における気候変動教育(2024~25年度・東北ESDセンター)

ねらい

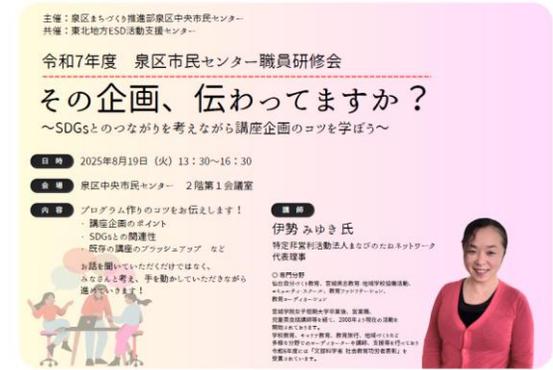
- 令和6年度から、仙台市の市民センター(公民館)と連携し、社会教育における気候変動教育の在り方について検討・実践を進めてきた。市民施設が実施する住民向け講座にSDGsや気候変動の視点を取り入れ、ESD講座として実践することで、市民施設職員がESD講座の企画・運営に関するノウハウを習得することを目的としている。
- 仙台市内の複数の市民センターにおいて、気候変動を切り口としたESD講座が自発的に企画・実施されることを目指し、関係施設への働きかけを行いながらプロジェクトを展開した。

実施概要

- 今年度、新たな連携先として、泉区中央市民センター(区役所管轄、泉区内13地区の市民センターを支援する拠点)と連携し、泉区内の市民センターが参加する職員研修会を協働で開催した。
- 職員研修会に参加した高森市民センターからの呼びかけを受け、今後の連携に向けた情報交換会を実施した。
- 桂市民センターとの連携を継続し、昨年度の学びの成果を活かした防災講座について、桂市民センター主導のもと、併設する児童館と連携し、小学生の親子を対象としたプログラムを実施した。
- 今年度の振り返りと次年度以降の連携について、関係者間で意見交換を実施した。

主な成果

- 桂市民センターでは、昨年度の学びとノウハウの蓄積を活かし、市民センターが企画員を構成し企画会を実施の上、防災講座の企画・運営を行った。併設される児童館と連動し、小学生の親子向けとターゲットを明確にした講座企画を行い、昨年度からの学びを実践につなげることができた。
- 仙台市泉区内の市民センターを取りまとめる中央市民センターとの連携により、職員研修会の企画・実施につながった。また、研修会の参加館にアプローチを行い、新たな連携に向け動き出すことができ、点から面へとネットワークを広げることができた。
- 昨年度から継続的なプロジェクト展開を行い、東北ESDセンターとして支援課題としてきた「社会教育」に切り込むことができた。気候変動教育の一般市民への波及についてもモデルとなる活動を展開ができ、さらに発展させていきたい。

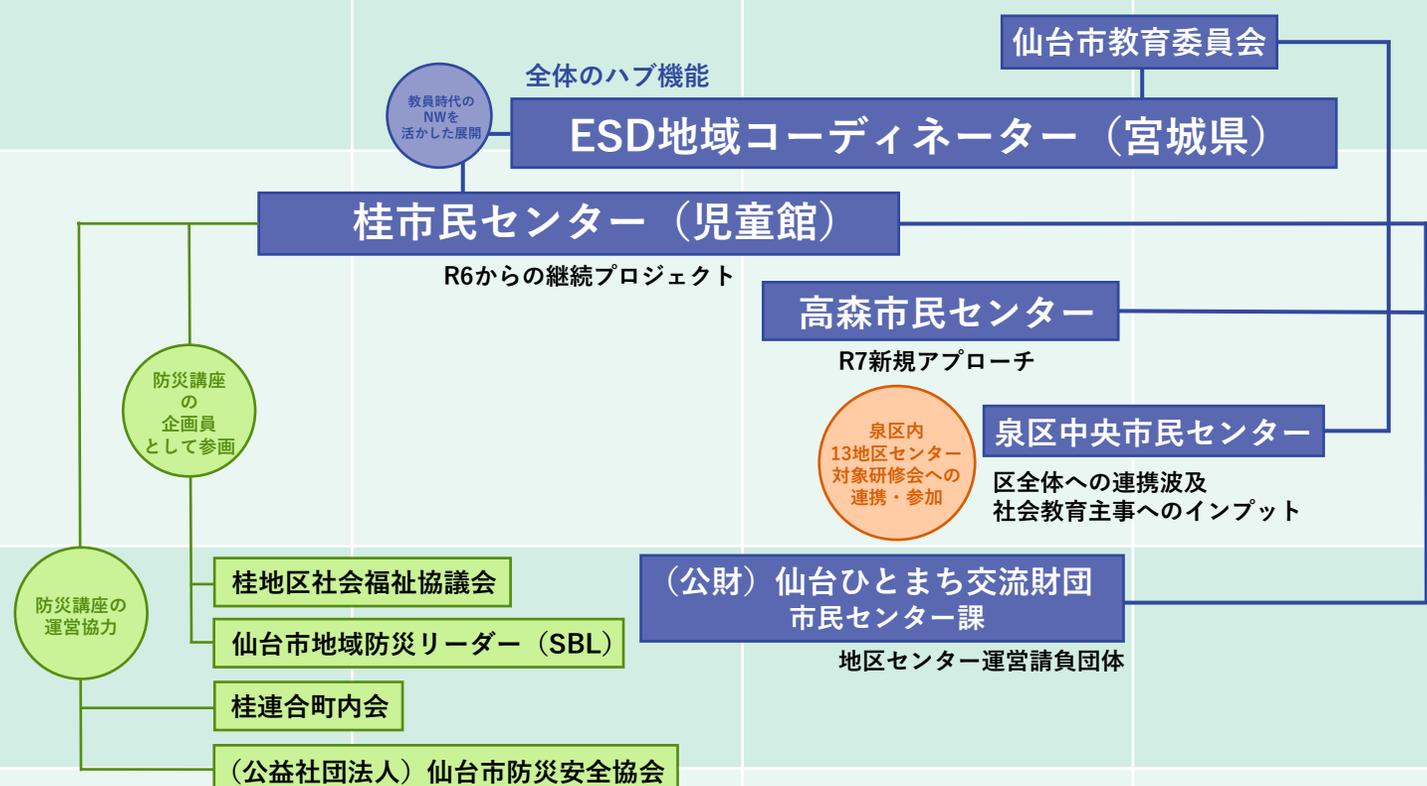


ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名

令和7年度 ESDfor2030学び合いプロジェクト 東北地方ESD活動支援センター
社会教育施設における気候変動教育

	Phase 1 学習者の変容	Phase 2 教育者・実践者・ 組織の変容	Phase 3 ネットワークの 変容	Phase 4 仕組みの変容	Phase 5 社会的インパクト (めざしたい状態)
学 校					
社会教育拠点					<div style="background-color: #ff0000; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> 社会教育施設における 気候変動教育の導入 </div> <div style="background-color: #ffcc99; padding: 10px; margin-top: 5px;"> 施設理念・事業方針との 親和性・連動性 </div> <div style="background-color: #ffcc99; padding: 10px; margin-top: 5px;"> 施設関係者が気候変動教育の 意味を理解し、 市民講座等への紐づけを 行いながら企画する </div> <div style="background-color: #ffcc99; padding: 10px; margin-top: 5px;"> 他地域の公民館を含む 社会教育施設への波及 </div>
連携プラットフォーム支援体（自治体、温暖化防止センター、他）					
ビジネス セクター					



気候変動じぶんごと化プロジェクト(22~24年度・関東センター)

ねらい

- 「気候変動を身近に感じることを促すため、身近な題材(地域の地形)、地域の課題(防災力の強化)と組み合わせたプログラムを開発し、実践する。
- 気候変動に対するガマン・負担というイメージを、生活の質が高まるというイメージに転換する。
- 地域づくりと連動した気候変動対策を実践する。
- SDGs各分野との統合的解決の道筋を作る。

実施概要

- ワーキンググループの組成(行政、学校、市民団体、専門家)と「気候変動×地形×防災」のプログラム開発。千葉県立流山市東部中学校での実践(2022年)
- 他校への展開(神奈川県川崎市立平間小学校、千葉県佐倉市立根郷小学校、土浦日本大学中等教育学校、神奈川県立山北高校)(2023-24年)
- 一般公開イベントでの実施(千葉県流山市、社会福祉法人、ジオパーク)(2023-24年)
- 「実践に向けたヒント集」作成、センター活動レポートへの掲載(2024年)



主な成果

- 他地域への展開: 上記の学校や一般イベントに加え、教育委員会が教職員研修に導入するなど実践が広がった。
- 多様な主体の参画: 国立環境研究所気候変動適応センターなど、ESDセンターの新たなネットワーキングにつながった。環境だけでなく、ジェンダーや福祉など異なる分野との連携の可能性を見出せた。
- 気候変動のイメージの転換: 関心の高い防災と組み合わせることで、気候変動に関して行動することは、より良い暮らしにつながるというイメージ転換の端緒を得られた。



【関東センター】気候変動じぶんごと化プロジェクト（22～24年度）

インプット:

2022年度

2023年度

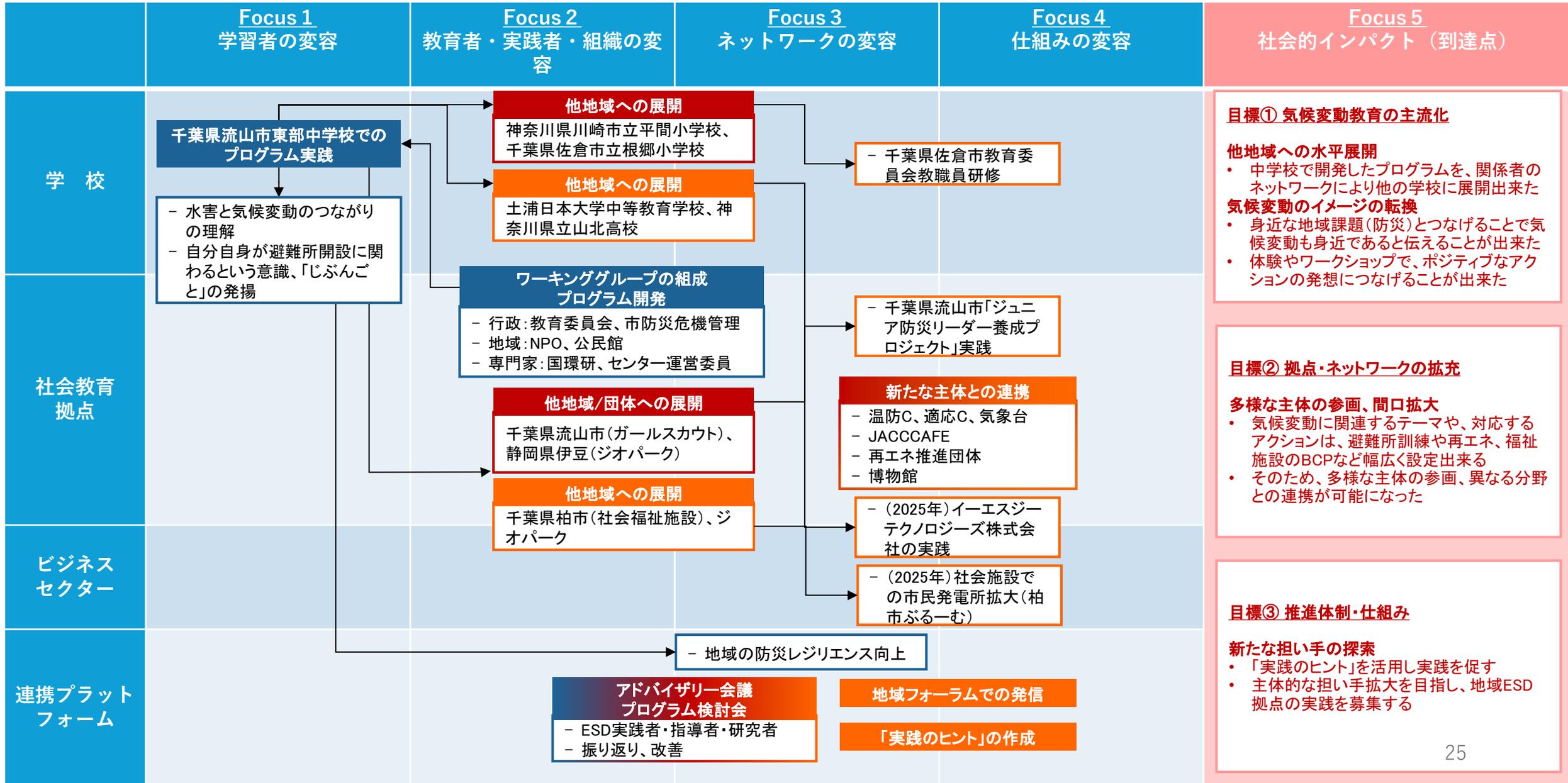
2024年度

アウトプット・アウトカム:

2022年度

2023年度

2024年度



地域ESD拠点と取り組む「気候変動×○○」(25年度～・関東センター)

ねらい

- 地域ESD拠点が得意とする/強化したいテーマと気候変動を結び付けたプログラム開発、気候変動アクション、ツール作成等の企画、実践を支援する。
- 体験・交流を取り入れた実践を通じて、気候変動に対して自律的に行動ができる人材の育成につながるプログラム・プロジェクトを実践する。
- ESDネットワークを活用した企画立案と実践の経験を通じて、地域ESD拠点自身の中核的存在としての自覚と機能強化につなげる。

実施概要

- 地域ESD拠点を対象として、企画を募集、説明会実施(4-5月)→計5件の応募
- 事務所、ESDCで実施企画を2件選定(5月)

古紙再生促進センター



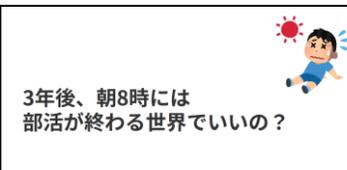
ESD拠点：公財)古紙再生促進センター

テーマ：「雑がみ様を救え！」
 - 千葉市立おゆみ野南中学校1年生(6クラス/約240名)を対象に、「総合的な学習の時間」8コマで実施
 - Day1: 紙とは何か(外部講師、体験)、Day2紙の課題、気候変動(外部講師、体験)、Day3: 課題解決探求グループワーク、Day4: 発表と専門家との対話

ESD拠点：一社)ESD TOKYO(晃華学園中学校高等学校)

テーマ：「3年後、朝8時には部活が終わる世界でいいの？」
 - 高校生自身がファシリテーターとなり、自ら作成したプレゼン資料で中高生を対象に、気候変動に関して学び、啓発ポスターを作成するワークショップを実施
 - 先生と生徒(リーダー的存在)が指導案を作成し、継続/横展開を目指す。

ESD TOKYO



主な成果

- 【ESD拠点の意識の変化】「雑紙のリサイクル」のみに関心があり、当初気候変動と組み合わせることに懐疑的であった古紙再生促進センターが、外部連携や気候変動との組み合わせが有意義だと認識した。
- 【学習者の行動変容】「地球温暖化を防げるならこの活動は大事だと思った」という感想から、気候変動へのアクションとしてのリサイクルというアクションにつながる示唆が得られた。
- 【知識から表現へ】高校生がファシリテーターとして学んだ知識を伝えることで学びを深めることが出来そう。

本日のプログラム

気候変動を「自分ごと」に変える4つのステップ

- 1 現在：記録的な猛暑と部活動の限界
- 2 近未来：予測データが示す「8時終了」の衝撃
- 3 課題：中高生の無力感とその裏にある可能性
- 4 行動：SNS発信を通じた社会へのアプローチ

26

【関東センター】地域ESD拠点と取り組む「気候変動×○○」（25年度～）

地域ESD拠点:古紙再生促進センター

地域ESD拠点:ESD TOKYO

点線は、現時点では未実施だが、今後の展開の可能性

	Focus 1 学習者の変容	Focus 2 教育者・実践者・組織の変容	Focus 3 ネットワークの変容	Focus 4 仕組みの変容	Focus 5 社会的インパクト（到達点）
学校	<p>千葉市立おゆみ野南中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> - 気候変動と、紙リサイクルの関係⇒多面的に考える力 - グループワーク⇒協力する力 - 発表⇒コミュニケーション力 <p>晃華学園中学校高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> - 気候変動と部活動⇒多面的に考える力 - ファシリテーター⇒計画する力、参加、コミュニケーション - ポスター制作/発信⇒コミュニケーション 	<p>千葉市立おゆみ野南中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教員のファシリテーション <p>晃華学園中学校高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> - 指導案の作成 - ファシリテーター役生徒への指導 <p>千葉市教育センター</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学校とのつながり、新たな取り組みアイデア 	<p>地域ESD拠点での実践</p> <p>古紙再生促進センター</p> <p>気候変動×古紙リサイクル「雑がみ様を救え！」</p> <p>ESD TOKYO</p> <p>気候変動×部活動「3年後、朝8時には部活が終わる世界でいいの？」</p>	<p>古紙再生促進センター</p> <ul style="list-style-type: none"> - 気候変動との組み合わせの標準化 <p>他校、施設での展開</p> <ul style="list-style-type: none"> - 古紙センター業務として実践 - 千葉県立浦安高校探求ゼミに参画 <p>生徒のアイデアの実装</p> <ul style="list-style-type: none"> - ゴミ袋へのデザイン、スマホゲーム 	<p>目標① 気候変動教育の主流化</p> <p>地域ESD拠点が気候変動に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点が、自身が取り組むテーマで、強みとする対象者に向けて、得意とする方法で、気候変動とかけ合わせて取り組む ・ 拠点が実践の主体者であることで、行動を促すモチベーションが増す <p>気候変動に対して、自律的に行動ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なテーマと気候変動との関係を理解することで、行動につながる
社会教育拠点		<p>地球温暖化防止活動推進員</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学校とのつながり、取り組みの多様化 <p>千葉市資源循環部</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学校とのつながり、新たな取り組みアイデア 		<p>他校での展開</p> <ul style="list-style-type: none"> - 近隣の中高校と実践 <p>発表の場の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> - 地域の環境施設など 	<p>目標② 拠点・ネットワークの拡充</p> <p>拠点を中心としたネットワーク拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点が気候変動の視点ややり方を獲得し、自身の課題解決、やりたい事の実践につながる ・ 明確で限定的なミッションを持つ他の業界団体（〇〇リサイクル協会等）や企業への拡大の可能性はある ・ 高校生ファシリテーターが複数生まれ、実践が増える
ビジネスセクター		<p>古紙再生事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学校、他参加者とのつながり、新たな事業アイデア <p>製紙会社、商品メーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> - 新たな事業アイデア、紙サプライチェーンの対話 		<p>専門家の協力</p> <ul style="list-style-type: none"> - 環境の専門家やクリエイターからの助言 	<p>目標③ 推進体制・仕組み</p> <p>拠点のネットワークで気候変動教育の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古紙センターの次年度の事業（高校の探求ゼミでの実施）につながった ・ ESD TOKYOを通じて、近隣の学校への展開を推進。地域ESD拠点の新たな登録につながった
連携プラットフォーム		<p>地域のプラットフォーム化</p>	<p>まなびあいアドバイザー</p> <ul style="list-style-type: none"> - 他地域ESD拠点の参加 		

ESDワークブック・ワークショップ×気候変動教育プロジェクト(2023～25年度・中部センター)

ねらい

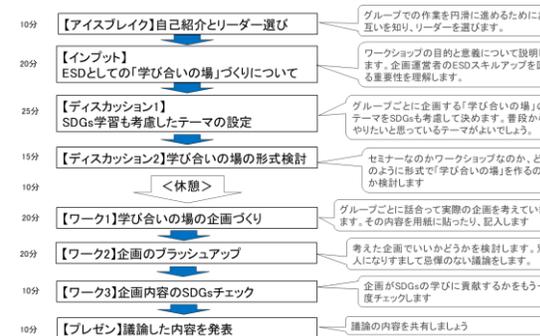
- 学校現場のESDに接した人材が社会で活動する際、社会側がSDGsの理念が不足していれば、十分な貢献の場が与えられないことも起こり得る。気候変動教育を中心とする社会ESDを具体的に推進するための基盤的枠組みの構築が必要。
- このため気候変動教育、ESDの場の事例を収集分析し、ESDの場を創るためのツール及び企画運営者養成ワークショッププログラムを作成し、ESD×気候変動教育の学び合いの場拡大の基盤形成を図った。

実施概要

- 事例収集、ツール作成、ワークショッププログラムの検討のために、地域ESD拠点などの有識者によるワーキンググループを組織、各年度3回の検討会を実施(2023年度～2025年度)。
- 事例収集や基本的な知見を得るためのオンラインワークショップ、気候変動ミステリーをベースとしたワークショップの実践的研究を実施、ESDワークブックを検討(2023年度)。
- ESDワークブックを作成公開、企画運営者養成ワークショップを構成し3回試行した(2024年度)。
- 企画運営者養成ワークショッププログラムを作成5回実践、同ワークショップ解説を公開(2025年度)

主な成果

- 一連の取組により社会や学校現場でESDの現場を設置するためのツールが整備されると共にESD企画WS実践事例の蓄積が進んでいる。直接波及効果としてWS参加者が自ら気候変動教育～ESDの場を形成した。
- 事業を通じて、二つの地域ESD拠点が当初よりWGに参加し、WGメンバーの団体が2025年度に拠点に加わった。また各地の行政、大学の有識者、教育団体、教育委員会、協同組合、温防センターなどのネットワーク連携が形成された。
- 気候変動教育などのESDの場づくりを行うための指南書となるESDワークブックが作成されるとともに、ESDの場の企画運営者を養成するためのワークショップパッケージが作成され実施方法解説書、方法解説動画、Webで公開された。

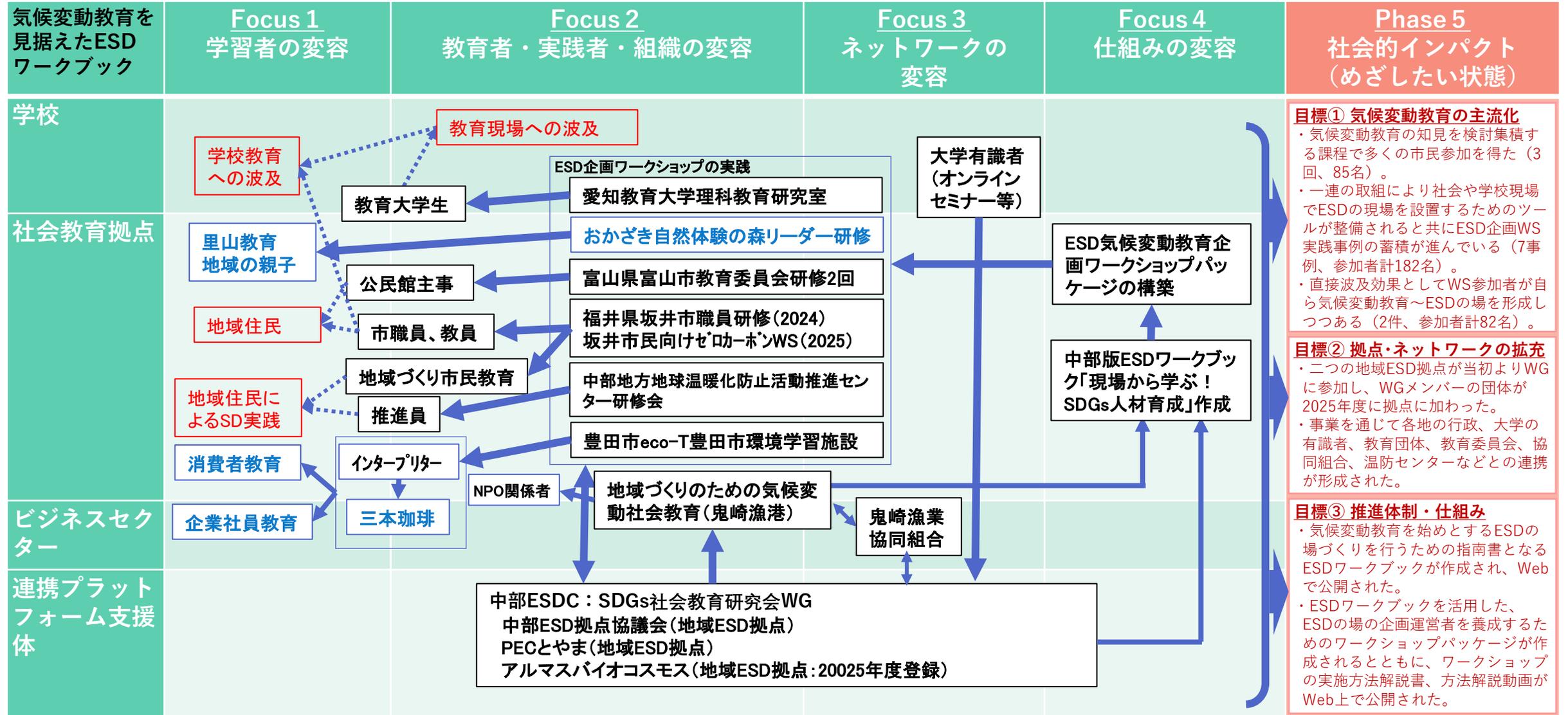


ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式（実績と直近の予想、2025年末段階）

プロジェクト・センター名

地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育（2023～2025）／中部地方ESD活動支援センター

凡例：黒字（プロジェクト実績）、青字（波及効果実績）、赤字（波及効果の予想）



学校と地域が連携したESD実践に向けた学びあい(2023~25年度・近畿センター)

ねらい

- 学校教育現場において学校と地域が連携したESDの取組を推進し、気候変動教育の導入・実践を促進するため、関係者の理解や知見を深めるとともに、センターとしてノウハウを蓄積する。
- 学校と地域が持続可能な形でつながる仕組みづくりを支援し、質の高いESD・気候変動教育が近畿各地で行われるベースを整える。
- 教育委員会や自治体環境部局などの行政組織を巻き込み、学校教育現場におけるESD実践に対する組織的な連携の仕組みを確立する。

実施概要

- 「ESDを地域をあげて推進する仕組みを知る」をテーマに、学校と地域が連携してESDを進めている具体的な事例共有や、カリキュラム作成のポイントを学ぶワークショップを全5回開催。(2023年度)
- 『指導主事や学校教員』と『自治体環境部局職員』を主な対象とし、セクターごとに取組紹介や意見交換等の学びあいを実施した後、両セクターが合流して相互に情報交換しながら令和7年度以降の具体的なESD活動計画案を作成。(2024年度)
- 過去2年間で得たノウハウを基に、和歌山県橋本市立学文路小学校をフィールドとした実証を展開。同校における地域交流の場作りや、同校の事例等をテーマとした勉強会を通じて、地域の実態に即したよりよい実践事例の創出とノウハウの検証を行う。(2025年度)

主な成果

- 3年間の活動を通じて、学校と地域の連携には「地域の資源を題材とすること」と「学校と地域がWin-Winの関係になること」が欠かせない要素であることを実証・共有した。
- 学文路小学校の事例では、地域住民と学校が未来を描く「KamuKamu交流Day」を支援し、学校と地域の持続的な連携プラットフォームが構築に寄与した。
- 地域フォーラムでも「学校と地域が連携したESD実践」をテーマに発信し、近畿各地におけるESD・気候変動教育の取組推進に寄与した。(合計参加者181名)

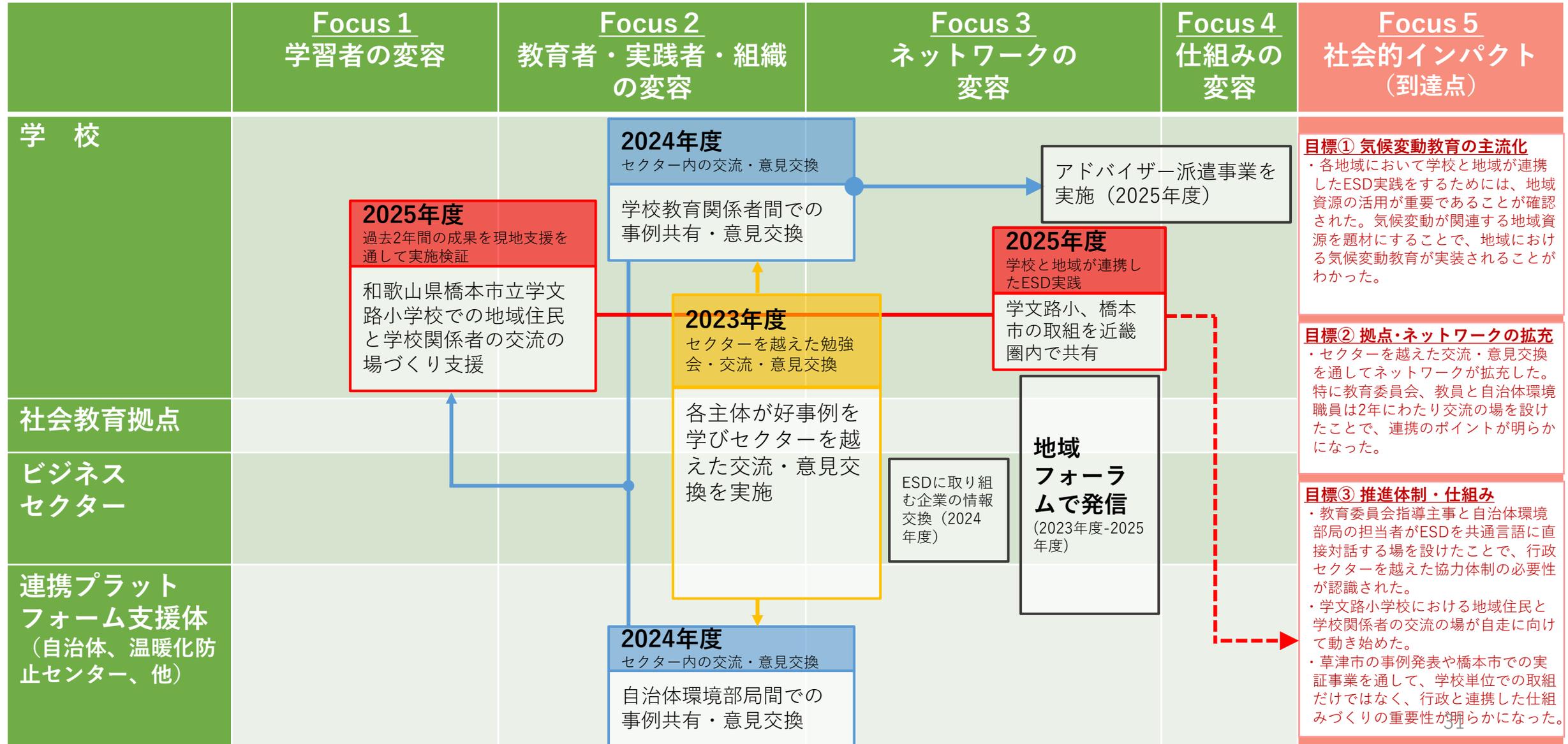


【近畿センター】学校と地域が連携したESD実践に向けた学びあい（2023～25年度）

プロジェクト・センター名

学校と地域が連携したESD実践に向けた学びあい(2023-2025) / 近畿地方ESD活動支援センター

※黒枠は、学びあいプロジェクトではないが、関連するプロジェクトとして記載した



北栄町脱炭素ロードブック制作プロジェクト（2023～2024年度・中国地方ESDセンター）

ねらい

- 過年度に策定支援した「2050年北栄町脱炭素ロードマップ」の達成に向けて、「第2次北栄町環境基本計画区域施策編」を策定し、多様な主体による脱炭素地域づくりを推進する。
- 脱炭素地域づくりへの理解や参加を促進する協働プロジェクトを通じて、役場だけでなくリーダーシップの担い手を発掘・育成するとともに、住民等への普及啓発を図る。

実施概要

- 脱炭素の基本や課題を学び合うワークショップ「ほくえい未来トーク2023」を実施。（計3回、参加者：延べ51名／2023年度）
- 町民・ユース等がレポーターとなって町内の取組を取材（参加者：延べ49名／2023年度）して「北栄町脱炭素ロードブック」（A5・8ページ、／2023年度）を制作し、行事や広報誌を通じて配布・発信。（2023～2024年度）
- 重点課題（担い手の育成、風力発電の理解促進、再エネ・省エネの推進）に取り組む「ほくえい未来トーク2024」を実施。（計3回、参加者：延べ101名／2024年度）

※全ての取組を学び合いプロジェクトの枠組み内で実施することが困難であったため、一部の取組や脱炭素先行地域に関する意見交換会等をEPOちゅうごく・中国地方ESDセンターの共催で実施した。

主な成果

- 多様な立場の町民（NPO、自治体、事業者、農家、自治会、公民館、中学生、高校生、大学生、一般など）の理解や参加（町人口1.4万人の約1%）、合意形成、担い手の育成。
- 「第2次北栄町環境基本計画区域施策編」の策定及び「2050年北栄町脱炭素ロードマップ」の実行。
- 事業者（建築、自動車、地域新電力など）、グラフィッカー、カメラマン、専門家、地球温暖化防止活動推進センター、中間支援組織との連携を通じた推進体制の強化。
- 冊子、グラフィックレコーディング、動画の制作や活用による、町民（全戸）への普及啓発。
- 一連の取組の成果が起因となり、2025年度に北栄町等が脱炭素先行地域に選定。



ほくえい未来トークのワークショップ



北栄町脱炭素ロードブック（表紙）

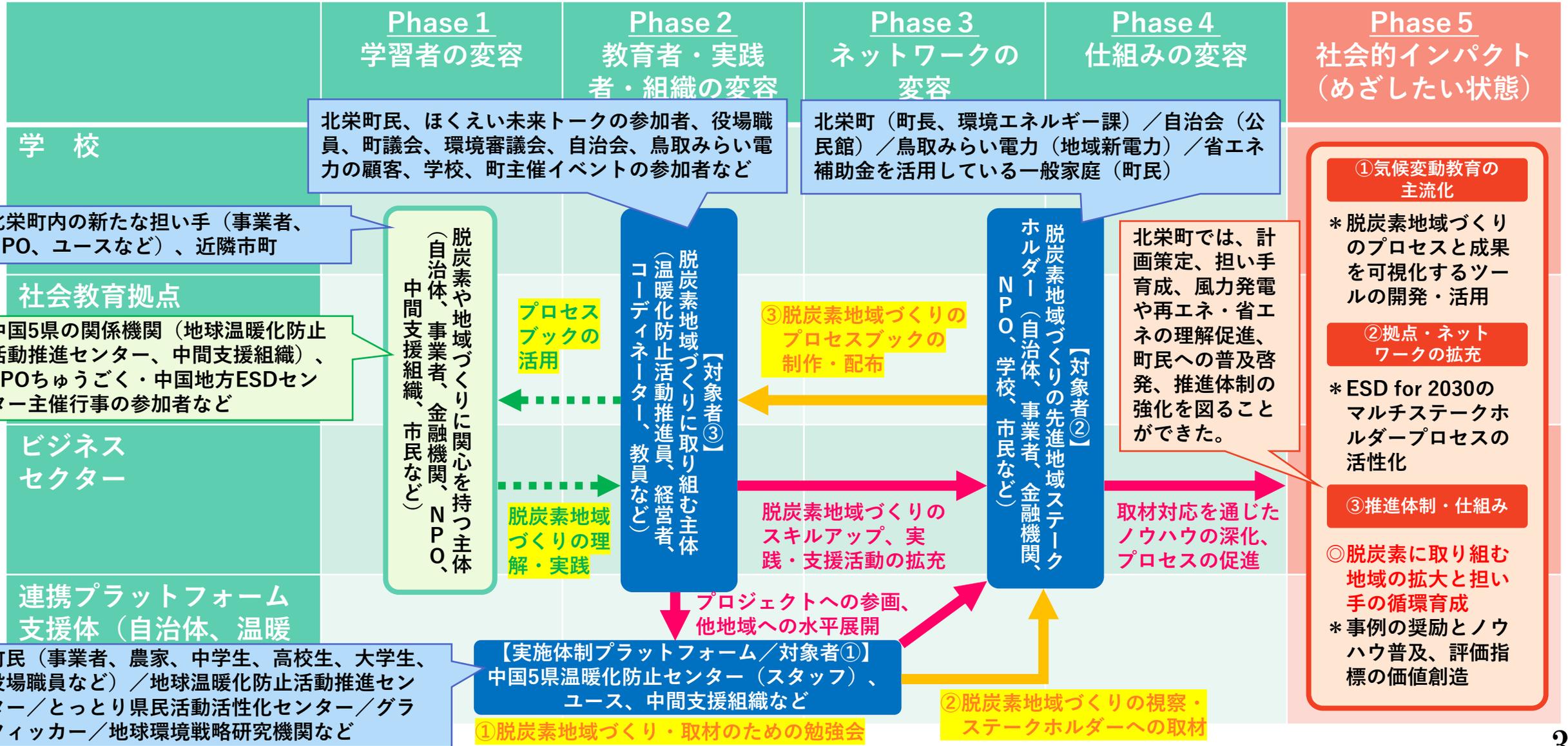


グラレコによる町の取組の可視化

ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名

北栄町脱炭素ロードブック制作プロジェクト / 中国地方ESDセンター



四国ESDバーチャル大学等 × 気候変動教育プロジェクト(2023～25年度・四国センター)

ねらい

- どこでも、誰でも一緒に学び合い、学びの可能性を広げ、ネットワークを豊かなものにする。同時に拠点連携による企画づくりを通して地域に根差したESDの魅力を発信、ブラッシュアップ。(バーチャル大学)
- ESD拠点88か所の連携に向けての仲間づくりとビジョンの共有、LS四国との連携によるネットワーク形成(地域ESD拠点交流会)
- 地域づくりESDによる面的アプローチ、ESDで力を入れたいテーマと地域を選定することで地域の変容へつなぐきっかけづくりを行う(四国ESDフォーラム)

実施概要

- 「〇〇×気候変動教育」をテーマに、四国ESDバーチャル大学を実施(2023～2025年度)。
- 地域ESD拠点交流会の開催。拠点として取り組みたいこと、連携の可能性等を抽出(2024、2025年度)。
- 四国ESDフォーラムの開催(2023～2025年度)。

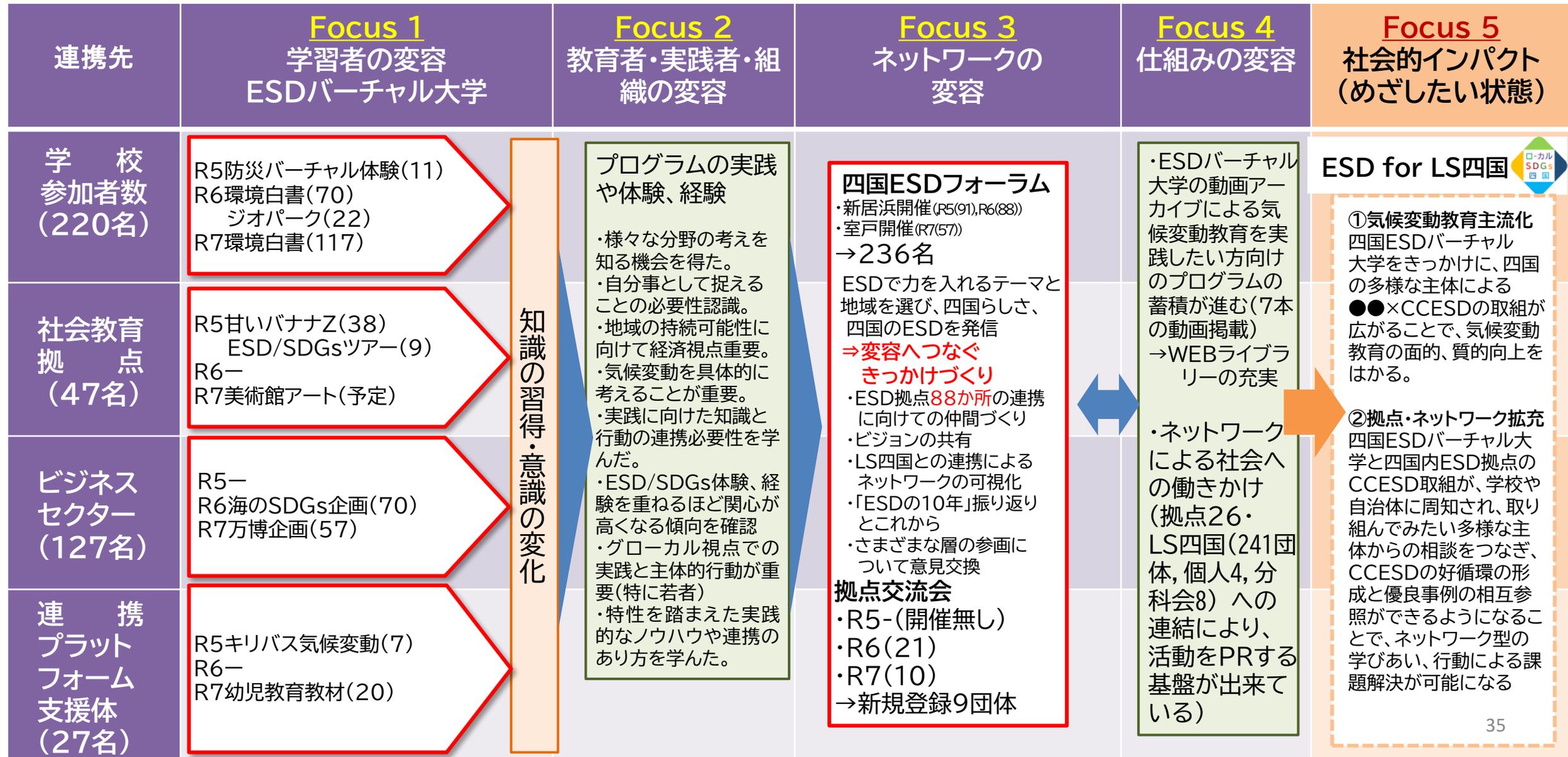
主な成果

- 内発的動機(やりたい)を引き出し、自己有用感(自己肯定感)の向上に寄与する可能性やESD理解、社会性、公益性向上につながるきっかけの提供(社会的課題発見機会)となった。**未就学児向け気候変動教育の水平展開の可能性が開かれ、高校生がトビタテ留学JAPANでキリバスに行くきっかけとなった。**(四国ESDバーチャル大学)
- 拠点連携に向けた対話の場づくり基盤の形成、バーチャル大学との連動、LS四国分科会への連結によるPRと連携しやすい環境を創出することができ、**9団体が新規地域ESD拠点として登録された。**(地域ESD拠点交流会)
- 参加発表校21校。ユースの取組発表への満足度が大変高く、参加によりESDへの理解度向上につながると共に、教育現場へのフィードバックを通して探究学習の支援につなげることができた。**ユネスコスクールやESD学会との連携にもつながった。**(四国ESDフォーラム)
- 上記の相乗効果については次ページのマトリクスで紹介。



■学びあいプロジェクト(R5(2023)-R7(2025))

～四国ESDバーチャル大学+拠点交流会+四国ESDフォーラムの成果連動による相乗効果～



地域×高校連携型ESD推進プロジェクト(2025年度・九州センター)

ねらい

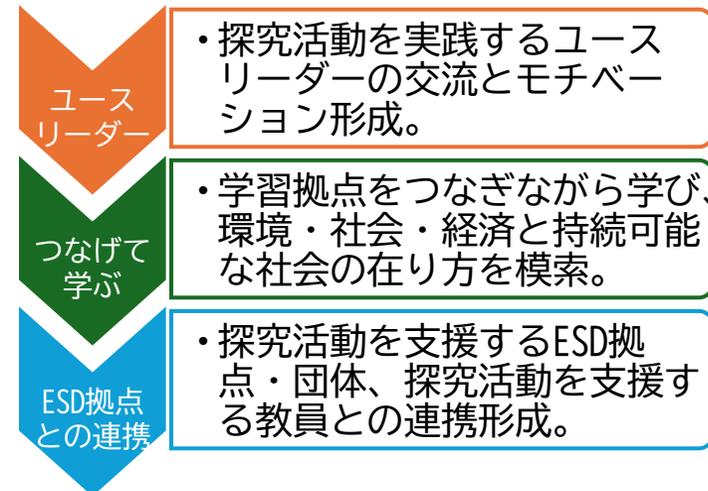
- 地域ぐるみのESD活動として、九州・沖縄地域ESD推進ビジョンに基づいた「地域を好きになるESD推進プロジェクト」及び「2030学び合いプロジェクト(全国事業)」によるモデル創出の環境整備支援ノウハウをもとに、地域ESD拠点等と高校探究活動を連携させた「地域×高校連携型ESD推進プロジェクト」を展開し、熊本市立必由館高校、沖縄県立辺土名高校に対して、ネットワーク型の伴走支援・発信を行い、九州・沖縄地域への波及・横展開を行った。

実施概要

- 各校では、地域の持続可能性に向けた高校探究活動、地域の生物多様性の保全に向けたプラットフォーム構築といった、地域課題を設定した生徒主体の「対話の場」を2校で展開した。
- 地域ESDフォーラムでは、熊本・沖縄の2校に加え、鹿児島県立屋久島高校(全国センター支援対象校)の各校から生徒2名・教員が参集し地域学びあいフォーラムを開催。探究活動や地域協働の取組を共有し、活動の横展開を実施した。
- また、各校での取組みを相互参照する交流型ESDフィールドワークを展開。阿蘇地域の草原保全、火山防災、地下水保全、SDGs経営といった、多様なテーマで開発と保全の両立や、企業によるサステナビリティへの取組を学習し探究活動のモチベーションを創出した。

主な成果

- 各校での対話を起点に、地域の資源と課題・暮らしをとおしてESDの考え方・実践を深める活動が広がった。
- フィールドワークにより探究活動をさらに発展させる視野と視点を獲得するなど、各校での活動をけん引する高校生リーダーのネットワークが今後の活動原動力を生み出した。
- 学校と地域ネットワークの接続によって、生徒が取り組む探究活動の関心・課題意識が拡大・深化し、以下のような視座が獲得された。
 - ・ 自然環境、防災意識の違いを体感し客観的に地域を捉える視点。
 - ・ 地域課題への気づきを端緒に、そこから協働による解決につなげるプロセス。
 - ・ 資源、課題など地域のさまざまな特性を、探究活動に活かすことの重要性。
 - ・ CSR・環境経営の文脈と、自らのキャリア形成を接続する活動。



ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス

実践事項

アウトプット

R7の成果

高校探究活動と連携した地域ぐるみのESDプラットフォーム活動／九州ESDセンター

R7プロジェクト	Focus 1 学習者の変容	Focus 2 教育者・実践者・組織 の変容	Focus 3 ネットワークの 変容	Focus 4 仕組みの変容	Focus 5 社会的インパクト (めざしたい状態)
学 校			①地域×高校生 プロジェクト支援	②地域ESD フォーラムの開催	
社会教育拠点	現場主義の 学び実践	③阿蘇フィールド ワークの実施	ビジネスパーソン、 地域団体からの ニーズや課題の把握	実践の 相互参照	高校での課題解決学 習や探究活動がユ ースリーダーを実践的 に育成した。
ビジネス セクター		3校ユースリーダーの 学びあいを展開	企業人を交えた 地域課題に向かう 高校生×地域の交流 (学びあいSHM)	地域と高等学校の 具体的な実践を共有	高校と地域のハブと して活躍するESDコー ディネーターの役割 と重要性がローカル で共有され、指導者 と支援者が両輪とな る協働体制が展開さ れた。
連携プラット フォーム支援主 体		マルチステークホル ダープログラムの実践	高校×企業×地域の プラットフォーム形成	地域アドバイザーによ るインパクト形成に向 けた論点整理	
		環境・地域課題に向き 合うユースリーダー育 成	高校×地域による探究 活動キックオフ	高校連携型地域ぐる みのESD事例の創出	
		ユース育成プログラ ムの組成		高校連携型ESDのニ ーズ把握	